

【 復活讃詞 第3調 】

てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの  
 天在者 樂 地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら  
 悦 主 其 臂 力 顯

わして、しをもつてしをほろぼし、ふ復  
 死 以 死 滅 ぼ し 復

くかつのはじめとなり、われらをぢごく  
 活 首 我 等 地 獄

のはらよりすくい、せかいにおおいな  
 腹 救 世 界 大

るあわれみをたまいたればなり。  
 憐 賜

【 日本の亜使徒聖ニコライの讃詞 第4調 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも  
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今

いつもよよに、アミン。  
 何 時 世 世

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう  
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい  
 實 神 智 役 者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい  
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 満 器 我 國 光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照 者 亜使徒主教聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および  
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいのため、いのちをたもうせい  
 全世界 爲 生命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。  
 三者 祈 給

【 聖三の歌 】

代禱) 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ  
 主 敬 虔 者 救 及 我

らにききたまえ。  
 等 聆 給

代禱) 世々に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
 聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのものよ、われらをあわれめ  
 常 生 者 我 等 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
 聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
 常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
 光 榮 父 子 聖 神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸 今 何 時 世 世 に、アミン。

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを  
 毅 聖 常 生 者 我 等 憐

あわれめよ。  
 憐

【 提綱 (プロキメン) 主日第3調 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) プロキメン、<sup>わ</sup> <sup>かみ</sup> <sup>うた</sup> <sup>うた</sup> <sup>わ</sup> <sup>おう</sup> <sup>うた</sup> <sup>うた</sup> 我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お 王  
我 神 歌 歌 我 王

う に う た い う た え よ 。  
歌 歌

誦經) <sup>ばんみん て う よろこび こえ もつ かみ よ</sup> 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お 王  
我 神 歌 歌 我 王

う に う た い う た え よ 。  
歌 歌

誦經) <sup>わ かみ うた うた</sup> 我が神に歌い歌えよ、

わ が お う に う た い う た え よ 。  
我 王 歌 歌

【 使徒經 (アポストロス) 93 端 ロマ書 6 章 18~23 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと じん たつ しょ よみ</sup> 聖使徒パヴェルがロマ人に達する書の讀、

代禱) <sup>つつし き</sup> 謹みて聽くべし、

誦經) <sup>けいてい なんぢら つみ と ぎ ぼく な なんぢら にくたい よわ よ われ</sup> 兄弟よ、爾等は罪より釋かれて、義の僕と爲れり。爾等が肉體の弱きに因りて、我

<sup>ひと じょう したが い なんぢら かつ そのしたい ふけつふほう ぼく な ふほう ゆだ</sup> 人の情に循いて言う、爾等が曾て其肢體を不潔不法の僕と爲して、不法に委ねし

<sup>ごと か いまなんぢら したい ぎ ぼく な せいせい ゆだ けだしなんぢら つみ ぼく と き</sup> ごとく、斯く今爾等の肢體を義の僕と爲して、成聖に委ねよ。蓋爾等罪の僕たりし時

<sup>ぎ と もの そのときなんぢら なん けつかあ いまみづか は ところ しわざ</sup> は、義より釋かれし者たり。其時爾等に何の結果有りしか、今自ら耻づる所の行爲な

<sup>けだしそのおわり し しか いまなんぢら つみ と かみ ぼく な と き なんぢ</sup> り、蓋其終は死なり。然れども今爾等罪より釋かれて、神の僕と爲りし時は、爾

<sup>ら けつか せいせい そのおわり えいえん いのち けだし つみ むくい し かみ たまもの</sup> 等の結果は成聖なり、其終は永遠の生命なり。蓋罪の報は死なり、神の賜はハ

<sup>われら しゅ よ えいえん いのち</sup> リストス・イイスス我等の主に由る永遠の生命なり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あなたがたは罪から解放され、義の僕となった。わたしは人間的な言い方をするが、それは、あなたがたの肉の弱さのゆえである。あなたがたは、かつて自分の肢体を汚れと不法との僕としてささげて不法に陥ったように、今や自分の肢体を義の僕としてささげて、きよくならねばならない。あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

\*\*\*\*\*

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第3調 】

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

誦經) <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>われなんぢ</sup> 我 <sup>たの</sup> 爾 <sup>ねが</sup> を <sup>われよよ</sup> 恃む、<sup>はぢ</sup> 願 <sup>え</sup> わくは <sup>え</sup> 我 <sup>たま</sup> 世 <sup>え</sup> 世 <sup>え</sup> に <sup>え</sup> 羞 <sup>え</sup> を <sup>え</sup> 得 <sup>え</sup> ざらん、

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

誦經) <sup>わ</sup> 我 <sup>ため</sup> が <sup>けんご</sup> 爲 <sup>かくれが</sup> に <sup>わ</sup> 堅 <sup>つね</sup> 固 <sup>かく</sup> なる <sup>え</sup> 避 <sup>たま</sup> 所 <sup>え</sup> とな <sup>え</sup> りて、<sup>え</sup> 我 <sup>え</sup> に <sup>え</sup> 常 <sup>え</sup> に <sup>え</sup> 隠 <sup>え</sup> る <sup>え</sup> を <sup>え</sup> 得 <sup>え</sup> しめ <sup>え</sup> 給 <sup>え</sup> え、

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 25 端 8 章 5~13 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) マトフェイ傳の聖福音經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮

はなんぢにきす。  
爾 歸

代禱) 謹みて聽くべし、

誦經) 謹みて聽くべし、彼の時イイス、カペルナウムに入りし時、百夫長彼に就きて、求

めて曰えり、主よ、我の僕癱瘋にて家に臥し、苦むこと甚し。イイス彼に謂う、

我往きて之を醫さん。百夫長對えて曰えり、主よ、爾が我の舎に入るは、我當ら

ず、唯一言を出せ、然らば我が僕愈えん、蓋我人の權に屬すれども、我が下に兵卒

ありて、我此に往けと云えば行き、彼に來れと云えば來り、我が僕に是を行えと云えば

行う。イイス之を聞きて奇と爲し、從う者に謂えり、我誠に爾等に語ぐ、イスライ

リの中にも、我是くの如き信を見ざりき。我又爾等に語ぐ、衆くの者東より西より來

りて、アヴラアム、イサク、イアコフと偕に天國に席坐し、而して國の諸子は外の幽暗

に逐われん、彼處には哀哭と切齒とあらん。イイス又百夫長に謂えり、往け、爾の信ぜ

し如く爾に爲るべし、斯の時其僕愈えたり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) イエスがカペナウムに帰ってこられたとき、ある百卒長がみもとにきて訴えて言った、「主よ、わたしの僕が中風でひどく苦しんで、家に寝ています」。イエスは彼に、「わたしが行ってなおしてあげよう」と言われた。そこで百卒長は答えて言った、「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります。わたしも權威の下にある者ですが、わたしの下にも兵卒がいます、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです」。イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた人々に言われた、「よく聞きなさい。イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない。なお、あなたがたに言うが、多くの人々が東から西からきて、天国で、アブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席につくが、この国の子らは外のやみに追い出され、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」。それからイエスは百卒長に「行け、あなたの信じたとおりになるように」と言われた。すると、ちょうどその時に、僕はいやされた。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
 主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。  
 爾 歸

※代式祈祷③ へ